

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)		授業の種類	
人間の尊厳と自立		(通信)	
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
	5		必修
[授業の目的・ねらい] 「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う学習とする。 [授業全体の内容の概要] 「人間の尊厳」を理解するためには、「尊厳」の内容を具現化することが必要であり、具体化していく過程を通して、介護を受ける人の尊厳を守ることの意義や、配慮すべきことを同じ人として理解する。そのためには、自立像の多面的理解を促し、自立した生活を支える必要性や生活モデルを基盤とした生活支援の必要性について、具体的な事例を取り上げ展開する。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] 人間としての尊厳の保持と自立した生活を支える必要性について理解する。 介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を身につける。 介護実践のために必要な人間の理解をする。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 ・ <u>人間の尊厳と自立</u>(自立支援の考え方) ・ <u>人間の尊厳と自立</u>(ノーマライゼーション) ・ <u>人権と尊厳と自立</u>(権利擁護)			
[使用テキスト・参考文献]		[成績判定基準]	
中央法規出版「実務者研修テキスト」		(試験やレポートの評価基準など) 提出課題により評価する。60点以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 社会の理解 I		授業の種類 (通信)	
授業の回数	時間数 5	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択 必修
[授業の目的 ・ ねらい] 1、介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 1、介護保険制度の背景と目的、介護保険制度の見直しの背景、目的及び基本的視点について理解する。また、介護保険制度が、要介護高齢者等の生活の中で実際にどのように活用されているかについて理解する。 2、介護保険制度が、自立生活を支援するために必要な社会的な制度であることについても理解する。さらに、介護と密接に関連する医療関係者との連携に必要な専門職の役割、介護を実践していく上で必要な基礎知識を学習する。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] 介護保険制度の基礎的知識を習得する。			
[授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法] コマ数 ・ <u>介護保険制度</u>(介護保険制度の概要、要介護認定とケアマネジメント) ・ <u>介護保険制度</u>(介護サービスの種類と内容、介護サービス事業者と施設) ・ <u>介護保険制度</u>(介護報酬、介護財源等)			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版「実務者研修テキスト」		[成績判定基準] (試験やレポートの評価基準など) 提出課題により評価する。60点以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)		授業の種類	
社会の理解Ⅱ		(通信)	
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
	30		必修
[授業の目的・ねらい] 1、個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、社会、の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程についての学習とする。 2、地域共生社会の実現に向けた制度や施策について学習する。 3、わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、仕組みについて理解する学習とする。 4、障害者総合支援法について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得する学習とする。 5、介護実践に必要とされる観点から、個人情報保護や成年後見制度等の基礎的知識を習得する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 1、個人と家族、個人と地域、個人と社会の関係性を知り、「自助」「互助」「共助」の内容を明らかにしておく必要がある。そして「公助」は、社会システムを維持するための施策によって自立を実現するものであるということを理解していく中で、人として社会的存在であり続けることの意義を理解する。 2、地域共生社会の考え方と地域包括ケアのしくみについて理解する。 3、日本国憲法が規定する生存権の性格を理解し、それを具体的に実現しようとする公的扶助等について学習する。また、病気やケガをしても安心して医療サービスを受けることのできる医療保険制度、加齢等により介護が必要になったときのための介護保険制度など、現在の主な社会保障の状況を、社会保障全体の関連を整理しながら理解することにより、社会保障制度がすべての国民の暮らしにとって必須であることを学習する。 4、障害者総合支援法の創設の背景と目的及び基本的視点について理解する。また、障害者自立支援制度が、障害のある人の生活の中で実際にどのように活用されているかについて理解する。 5、個人情報保護、情報公開制度、第三者評価と成年後見制度、高齢者虐待防止法、日常生活自立支援事業に加えて、訪問販売などの不当な契約に対するクーリングオフ制度などの消費者保護関連の制度等を理解する。また、人の権利を守るもの、中でも日常的な生活に密接に関わる施策が、自立生活を支援するために必要な社会的な制度であることについても理解する。さらに、医療保険制度や生活習慣病予防等の健康づくり施策、介護と密接に関連する医療関係者との連携に必要な法規、介護を実践していく上で必要な基礎知識を学習する。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] 個人、家族、近隣、社会、の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解する。 地域共生社会の考え方と地域包括ケアのしくみについての基本的な知識を習得する。 社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、仕組みについて理解する。 障害者総合支援法の基礎的知識を習得する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 ・ <u>社会と生活のしくみ</u>(生活の定義) ・ <u>社会と生活のしくみ</u>(各国の介護と福祉制度) ・ <u>社会と生活のしくみ</u>(各国の介護と福祉制度) ・ <u>地域共生社会の実現に向けた制度や施策</u> ・ <u>地域共生社会の実現に向けた制度や施策</u> ・ <u>地域共生社会の実現に向けた制度や施策</u> ・ <u>社会保障制度</u>(医療制度) ・ <u>社会保障制度</u>(年金制度) ・ <u>社会保障制度</u>(所得保障、生活保護) ・ <u>障害者総合支援法</u> ・ <u>障害者総合支援法</u> ・ <u>障害者総合支援法</u> ・ <u>介護実践に関する諸制度</u>(児童家庭福祉) ・ <u>介護実践に関する諸制度</u>(住宅および居住政策) ・ <u>介護実践に関する諸制度</u>(成年後見制度)			
[使用テキスト・参考文献]		[成績判定基準]	
中央法規出版「実務者研修テキスト」		(試験やレポートの評価基準など)	
		提出課題により評価する。60点以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)		授業の種類	
介護の基本 I		(通信)	
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
	10		必修
[授業の目的・ねらい] 「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。 [授業全体の内容の概要] 介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通して理解し、介護実践の基本的姿勢についてノーマライゼーションやICF、介護の倫理などを通して理解する。とりわけ、介護実践は介護を必要とする人を「生活する人」として受け止め、一人ひとりの利用者の意向や生き方、生活習慣など、「その人らしさ(個性)」を大切にすることなどを学ぶことが必要であり、尊厳を守る介護、自立に向けた介護について理解を深める。さらにケアマネジメントや職業倫理、リスクマネジメント、そして介護従事者の健康管理などについて学ぶことにより、安全かつ安心できる介護や信頼のおける介護の実現を目指す。また、領域「人間と社会」や「こころとからだのしくみ」で学んだ人間や社会を理解する視点から介護の専門性を理解し、利用者が安心して生きがいの持てる生活が営める生活環境を整えることが可能となるよう、危機管理や関係職種間の連携のあり方などを理解する。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] 介護の歴史や介護問題の背景を理解する。 「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉える。 介護を必要とする人の生活や環境について理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 ・ <u>介護福祉士の役割と機能</u> ・ <u>尊厳の保持、自立にむけた介護の考え方と展開</u>(ICF、リハビリテーションの理念・基礎) ・ <u>尊厳の保持、自立にむけた介護の考え方と展開</u>(リハビリテーション医療、介護予防とリハビリテーション等) ・ <u>介護福祉士の倫理</u>(倫理と尊厳の理解、守秘義務・個人情報保護) ・ <u>介護福祉士の倫理</u>(契約とサービス、サービス実施時の留意点、身体拘束の禁止、虐待の防止)			
[使用テキスト・参考文献]		[成績判定基準]	
中央法規出版「実務者研修テキスト」		(試験やレポートの評価基準など) 提出課題により評価する。60点以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)		授業の種類	
介護の基本Ⅱ		(通信)	
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
	20		必修
[授業の目的・ねらい] 「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。 [授業全体の内容の概要] 介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通して理解し、介護実践の基本的姿勢についてノーマライゼーションやICF、介護の倫理などを通して理解する。とりわけ、介護実践は介護を必要とする人を「生活する人」として受け止め、一人ひとりの利用者の意向や生き方、生活習慣など、「その人らしさ(個性)」を大切にすることなどを学ぶことが必要であり、尊厳を守る介護、自立に向けた介護について理解を深める。さらにケアマネジメントや職業倫理、リスクマネジメント、そして介護従事者の健康管理などについて学ぶことにより、安全かつ安心できる介護や信頼のおける介護の実現を目指す。また、領域「人間と社会」や「こころとからだのしくみ」で学んだ人間や社会を理解する視点から介護の専門性を理解し、利用者が安心して生きがいの持てる生活が営める生活環境を整えることが可能となるよう、危機管理や関係職種間の連携のあり方などを理解する。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] 「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を理解する。 ICFの考え方を、生活の観点から捉える。 リハビリテーションについて理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 <u>介護を必要とする人の生活の理解と支援</u>(生活環境の捉え方) 2 <u>介護を必要とする人の生活の理解と支援</u>(生活環境の捉え方) 3 <u>介護を必要とする人の生活の理解と支援</u>(地域生活支援) 4 <u>介護を必要とする人の生活の理解と支援</u>(地域アセスメントの技術と方法) 5 <u>介護実践における連携</u>(チームケア) 6 <u>介護実践における連携</u>(連携とチームケア) 7 <u>介護における安全の確保とリスクマネジメント</u>(リスクマネジメント) 8 <u>介護における安全の確保とリスクマネジメント</u>(在宅ケアにおけるリスクマネジメント) 9 <u>介護従事者の安全</u>(介護従事者の健康管理、ストレスマネジメント) 10 <u>介護従事者の安全</u>(介護従事者の労働の権利と制度)			
[使用テキスト・参考文献]		[成績判定基準]	
中央法規出版「実務者研修テキスト」		(試験やレポートの評価基準など)	
		提出課題により評価する。60点以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) コミュニケーション技術		授業の種類 (通信)	
授業の回数	時間数 20	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択 必修
[授業の目的 ・ ねらい] 介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。 [授業全体の内容の概要] 介護場面において適切な支援を行うためには、利用者や家族、他の専門職とのコミュニケーションが必要である。そのため、コミュニケーションの意義と目的を理解し、具体的な技法の習得を目指す。また、介護におけるチームマネジメントのあり方について理解し、チームの一員としてのコミュニケーションの方法を学ぶ。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] 介護におけるコミュニケーションの意義と目的について理解する。 利用者・家族とのコミュニケーションの方法について理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法] コマ数 ・ <u>介護場面における利用者・家族コミュニケーション</u>(コミュニケーションを考える) ・ <u>介護場面における利用者・家族コミュニケーション</u>(自己を理解する、信頼関係を築くための基本的姿勢) ・ <u>介護場面における利用者・家族コミュニケーション</u>(適切なコミュニケーションのために) ・ <u>介護場面における利用者・家族コミュニケーション</u>(コミュニケーションと信頼関係、相談援助とは) ・ <u>介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション</u>(高齢者とその家族の心理の理解) ・ <u>介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション</u>(障害者(児)とその家族の心理の理解) ・ <u>介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション</u>(こころのケアの基礎) ・ <u>介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション</u>(家族支援) ・ <u>介護におけるチームマネジメントとコミュニケーション</u>(コミュニケーション手段の障害、チームマネジメントを実践するために) ・ <u>介護におけるチームマネジメントとコミュニケーション</u>(記録の意義と重要性)			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版「実務者研修テキスト」		[成績判定基準] (試験やレポートの評価基準など) 提出課題により評価する。60点以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)		授業の種類	
生活支援技術Ⅰ		(通信)	
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
	20		必修
[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 利用者がなじみのある環境のもとでエンパワメントをいかに引き出して活用し、自立支援に向けた実践方法について学ぶ。そのための生活を理解し、個性を尊重し、幅広い生活上の援助を行うための方法を習得する。また、ICFの視点に基づいた介護方法についても学ぶ。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] 生活支援の意義について理解する。 ICFにもとづくアセスメントについて理解する。 自立に向けた住環境を整備し、安全で心地よい生活の場づくりの方法、及びその支援方法について理解する。 各生活場面に応じ、自立に向けた身体介護の考え方について習得する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 ・ <u>生活支援とICF</u> (ICFの定義、ICFの視点にもとづくアセスメントの重要性) ・ <u>ボディメカニクスの活用</u> ・ <u>生活支援技術の基本</u> (介護技術の展開、食事) ・ <u>生活支援技術の基本</u> (食事、家事援助等) ・ <u>生活支援技術の基本</u> (排泄) ・ <u>生活支援技術の基本</u> (移動・移乗) ・ <u>生活支援技術の基本</u> (入浴・清潔保持、口腔清潔) ・ <u>生活支援技術の基本</u> (着脱、整容) ・ <u>環境整備、福祉用具活用等の視点</u> (在宅生活と福祉用具・住宅改修の意義、福祉用具と住宅改修の基礎) ・ <u>生活支援技術の基本</u> (家事援助等)、<u>環境整備、福祉用具活用等の視点</u> (室内整備と掃除、五感への働きかけ等)			
[使用テキスト・参考文献]		[成績判定基準]	
中央法規出版「実務者研修テキスト」		(試験やレポートの評価基準など)	
		提出課題により評価する。60点以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)		授業の種類	
生活支援技術Ⅱ		(通信)	
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
	30		必修
[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 利用者がなじみのある環境のもとでエンパワーメントをいかに引き出して活用し、自立支援に向けた実践方法について学ぶ。そのための生活を理解し、個別性を尊重し、幅広い生活上の援助を行うための方法を理解する。また、ICFの視点に基づいた介護方法についても学ぶ。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] 生活の定義、生活形成のプロセス、生活経営について理解する。 ICFにもとづくアセスメントについて理解する。 利用者の状態に応じた支援の方法を理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 ・ <u>利用者の心身の状態に合わせた生活支援技術、環境整備(食事)</u> ・ <u>利用者の心身の状態に合わせた生活支援技術、環境整備(食事)</u> ・ <u>利用者の心身の状態に合わせた生活支援技術、環境整備(排泄)</u> ・ <u>利用者の心身の状態に合わせた生活支援技術、環境整備(排泄)</u> ・ <u>利用者の心身の状態に合わせた生活支援技術、環境整備(移動・移乗)</u> ・ <u>利用者の心身の状態に合わせた生活支援技術、環境整備(移動・移乗)</u> ・ <u>利用者の心身の状態に合わせた生活支援技術、環境整備(休憩・睡眠)</u> ・ <u>利用者の心身の状態に合わせた生活支援技術、環境整備(入浴・清潔保持、口腔清潔)</u> ・ <u>利用者の心身の状態に合わせた生活支援技術、環境整備(入浴・清潔保持、口腔清潔)</u> ・ <u>利用者の心身の状態に合わせた生活支援技術、環境整備(入浴・清潔保持、口腔清潔)</u> ・ <u>利用者の心身の状態に合わせた生活支援技術、環境整備(着脱・整容)</u> ・ <u>利用者の心身の状態に合わせた生活支援技術、環境整備(着脱・整容)</u> ・ <u>利用者の心身の状態に合わせた介護、生活支援技術、環境整備(福祉用具等の活用)</u> ・ <u>利用者の心身の状態に合わせた生活支援技術、環境整備(人生の最終段階における介護)</u> ・ <u>利用者の心身の状態に合わせた生活支援技術、環境整備(人生の最終段階における介護)</u>			
[使用テキスト・参考文献]		[成績判定基準]	
中央法規出版「実務者研修テキスト」		(試験やレポートの評価基準など) 提出課題により評価する。60点以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)		授業の種類	
介護過程Ⅰ		(通信)	
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
	20		必修
[授業の目的・ねらい] 他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。 [授業全体の内容の概要] 介護過程の展開方法を学習し、理解することは、利用者に対する質の高いサービス提供につながる。質の高いサービスを提供するためには、その意義、目的、目標を明確にして計画をする必要がある。また、その計画を実践し、評価することも大切である。その他に、情報共有や多職種との連携も重要であり、これらの技法について学ぶ。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] 介護過程の意義と目的について理解する。 介護過程の展開について理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 ・ <u>介護過程の基礎的知識</u>(ケアプランとサービス計画に関する基礎的理解) ・ <u>介護過程の基礎的知識</u>(居宅サービス計画・各サービス計画とサービスの関係) ・ <u>介護過程の展開</u>(アセスメントとニーズの把握) ・ <u>介護過程の展開</u>(情報収集、アセスメント) ・ <u>介護過程の展開</u>(情報収集、アセスメント) ・ <u>介護過程の展開</u>(居宅ケアプランの作成) ・ <u>介護過程の展開</u>(各サービス計画) ・ <u>介護過程とチームアプローチ</u>(ケアプラン・サービス計画に基づいたモニタリングと記録) ・ <u>介護過程とチームアプローチ</u>(介護職員のアセスメントと連携) ・ <u>介護過程とチームアプローチ</u>(介護職員のアセスメントと連携)			
[使用テキスト・参考文献]		[成績判定基準]	
中央法規出版「実務者研修テキスト」		(試験やレポートの評価基準など) 提出課題により評価する。60点以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)		授業の種類	
介護過程Ⅱ		(通信)	
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
	25		必修
[授業の目的・ねらい] 他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。 [授業全体の内容の概要] 介護過程の展開方法を学習し、理解することは、利用者に対する質の高いサービス提供につながる。質の高いサービスを提供するためには、その意義、目的、目標を明確にして計画をする必要がある。また、その計画を実践し、評価することも大切である。その他に、情報共有や多職種との連携も重要であり、これらの技法について学ぶ。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] 自立に向けた介護過程の展開について理解する。 利用者の状況・状態に応じた介護過程の展開について理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 ・ <u>介護過程の展開の実際</u> ・ <u>介護過程の展開の実際</u> ・ <u>介護過程の展開の実際</u> ・ <u>介護過程の展開の実際</u> ・ <u>介護過程の展開の実際</u> ・ <u>介護過程の展開の実際</u> ・ <u>介護過程の展開の実際</u> ・ <u>介護過程の展開の実際</u> ・ <u>介護過程の展開の実際</u> ・ <u>介護過程の展開の実際</u> ・ <u>介護過程の展開の実際</u> ・ <u>介護過程の展開の実際</u> ・ <u>介護過程の展開の実際</u>			
[使用テキスト・参考文献]		[成績判定基準]	
中央法規出版「実務者研修テキスト」		(試験やレポートの評価基準など) 提出課題により評価する。60点以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)		授業の種類	
介護過程Ⅲ		(演習)	
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
23	45		必修
[授業の目的・ねらい] 他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。 介護技術の原理原則の習得を实践に活用できる応用力を学習する。 [授業全体の内容の概要] 介護過程の展開方法を学習し、理解することは、利用者に対する質の高いサービス提供につながる。質の高いサービスを提供するためには、その意義、目的、目標を明確にして計画をする必要がある。また、その計画を实践し、評価することも大切である。その他に、情報共有や多職種との連携も重要であり、これらの技法について学ぶ。 介護技術の原理原則に基づいて、習得した知識・技術を活用することができる。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] ケースカンファレンスやサービス担当者会議の意義と目的について理解する。 他の職種との連携の方法について理解する。 知識・技術を総合的に活用し利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 <u>介護過程の展開の実際</u> 2 <u>介護過程の展開の実際</u> 3 <u>介護過程の展開の実際</u> 4 <u>介護過程の展開の実際</u> 5 <u>介護技術の評価(コミュニケーション)</u> 6 <u>介護技術の評価(移動・移乗)</u> 7 <u>介護技術の評価(移動・移乗)</u> 8 <u>介護技術の評価(移動・移乗)</u> 9 <u>介護技術の評価(入浴)</u> 10 <u>介護技術の評価(入浴)</u> 11 <u>介護技術の評価(着脱)</u> 12 <u>介護技術の評価(着脱)</u> 13 <u>介護技術の評価(食事)</u> 14 <u>介護技術の評価(食事)</u> 15 <u>介護技術の評価(排泄)</u>			
[使用テキスト・参考文献]		[成績判定基準]	
中央法規出版「実務者研修テキスト」		(試験やレポートの評価基準など) 出席と試験により評価する。60点以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)		授業の種類	
介護過程Ⅲ		(演習)	
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
23	45		必修
[授業の目的・ねらい] 他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。 介護技術の原理原則の習得を実践に活用できる応用力を学習する。 [授業全体の内容の概要] 介護過程の展開方法を学習し、理解することは、利用者に対する質の高いサービス提供につながる。質の高いサービスを提供するためには、その意義、目的、目標を明確にして計画をする必要がある。また、その計画を実践し、評価することも大切である。その他に、情報共有や多職種との連携も重要であり、これらの技法について学ぶ。 介護技術の原理原則に基づいて、習得した知識・技術を活用することができる。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] ケースカンファレンスやサービス担当者会議の意義と目的について理解する。 他の職種との連携の方法について理解する。 知識・技術を総合的に活用し利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 16 <u>介護技術の評価(整容)</u> 17 <u>介護技術の評価(排泄)</u> 18 <u>介護技術の評価(排泄)</u> 19 <u>介護技術の評価(排泄)</u> 20 <u>介護技術の評価</u> 21 <u>介護技術の評価</u> 22 <u>介護過程の展開の実際</u> 23 <u>介護過程の展開の実際</u>			
[使用テキスト・参考文献]		[成績判定基準]	
中央法規出版「実務者研修テキスト」		(試験やレポートの評価基準など)	
		出席と試験により評価する。60点以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 発達と老化の理解 I		授業の種類 (通信)	
授業の回数	時間数 10	配当学年・時期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 介護福祉士は、利用者のことを理解していなければならない。そのため、介護に必要なこととからだの仕組みを学ぶことは大切なことである。この科目では、人間が生まれてから高齢になるまでの過程を理解し、加齢に伴う障害や疾病について学ぶ。さらには、高齢者の身体面と精神面の関係、身体機能と精神機能の変化についての知識を深める。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] 高齢者の心理を理解する。 老化に伴うこととからだの変化について理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 ・ <u>老化に伴うからだの変化と日常生活への影響</u>(高齢者の身体的特徴) ・ <u>老化に伴うからだの変化と日常生活への影響</u>(高齢者の身体的特徴) ・ <u>老化に伴う心の変化と日常生活への影響</u>(高齢者の精神的特徴) ・ <u>老化に伴う心の変化と日常生活への影響</u>(高齢者の精神的特徴) ・ <u>老化に伴うからだの変化と日常生活への影響</u>(睡眠)			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版「実務者研修テキスト」		[成績判定基準] (試験やレポートの評価基準など) 提出課題により評価する。60点以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 発達と老化の理解Ⅱ		授業の種類 (通信)	
授業の回数	時間数 20	配当学年・時期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 介護福祉士は、利用者のことを理解していなければならない。そのため、介護に必要なこととからだの仕組みを学ぶことは大切なことである。この科目では、人間が生まれてから高齢になるまでの過程を理解し、加齢に伴う障害や疾病について学ぶ。さらには、高齢者の身体面と精神面の関係、身体機能と精神機能の変化についての知識を深める。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] ライフサイクル各期の発達の基礎を理解する。 老年期の発達と成熟について理解する。 高齢者の疾病と生活上の留意点について理解する。 保健医療職との連携の方法について理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 ・ <u>人間の成長・発達</u>(老化とは、老年期の発達課題) ・ <u>老年期の発達・成熟と心理</u>(高齢者の心理的課題と支援の留意点) ・ <u>老年期の発達・成熟と心理</u>(人間の成長・発達の理解) ・ <u>高齢者に多い症状・疾病等と留意点</u>(高齢者の疾病と食事・栄養管理) ・ <u>高齢者に多い症状・疾病等と留意点</u>(高齢者の疾病と食事・栄養管理) ・ <u>高齢者に多い症状・疾病等と留意点</u>(健康管理とバイタルサイン) ・ <u>高齢者に多い症状・疾病等と留意点</u>(感染症の種類と特徴) ・ <u>高齢者に多い症状・疾病等と留意点</u>(高齢者に起こりやすい感染症) ・ <u>高齢者に多い症状・疾病等と留意点</u>(呼吸器症状と食中毒等の疾病) ・ <u>高齢者に多い症状・疾病等と留意点</u>(その他の訴え・症状と疾病)			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版「実務者研修テキスト」		[成績判定基準] (試験やレポートの評価基準など) 提出課題により評価する。60点以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)		授業の種類	
認知症の理解 I		(通信)	
授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
	10		必修
[授業の目的 ・ ねらい] 認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 認知症のケアの歴史や理念を学ぶとともに、認知症の症状や行動障害等について学ぶ。また、医学的側面からみた認知症を学ぶ。また、家族への支援や、地域との連携、多職種協働に、認知症サポーター、地域ボランティア等によるケアの方法について学ぶ。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] 認知症のケアの歴史や理念を理解する。 認知症の人の特徴的な心理・行動について理解する。 認知症に伴う機能の変化と日常生活への影響について理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法] コマ数 ・ <u>認知症ケアの理念</u> ・ <u>認知症による生活障害、心理・行動の特徴</u> ・ <u>認知症による生活障害、心理・行動の特徴</u> ・ <u>認知症の人や家族へのかかわり・支援の基本</u> ・ <u>認知症の人や家族へのかかわり・支援の基本</u>			
[使用テキスト・参考文献]		[成績判定基準]	
中央法規出版「実務者研修テキスト」		(試験やレポートの評価基準など) 提出課題により評価する。60点以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)		授業の種類	
認知症の理解Ⅱ		(通信)	
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
	20		必修
[授業の目的・ねらい] 認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 認知症のケアの歴史や理念を学ぶとともに、認知症の症状や行動障害等について学ぶ。また、医学的側面からみた認知症を学ぶ。また、家族への支援や、地域との連携、多職種協働に、認知症サポーター、地域ボランティア等によるケアの方法について学ぶ。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] 医学的側面から見た認知症について理解する。 地域におけるサポート体制について理解する。 家族への支援の方法について理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 ・ <u>医学的側面から見た認知症の理解</u> ・ <u>医学的側面から見た認知症の理解</u> ・ <u>医学的側面から見た認知症の理解</u> ・ <u>医学的側面から見た認知症の理解</u> ・ <u>医学的側面から見た認知症の理解</u> ・ <u>認知症の人への支援の実際</u> ・ <u>認知症の人への支援の実際</u> ・ <u>認知症の人への支援の実際</u> ・ <u>認知症の人への支援の実際</u> ・ <u>認知症の人への支援の実際</u>			
[使用テキスト・参考文献]		[成績判定基準]	
中央法規出版「実務者研修テキスト」		(試験やレポートの評価基準など) 提出課題により評価する。60点以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)		授業の種類	
障害の理解 I		(通信)	
授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
	10		必修
[授業の目的 ・ ねらい] 障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 障害を持っている人と持っていない人の違いを理解するとともに、障害の捉え方や、ICF、様々な障害の種類と原因、特性について学ぶとともに、障害のある人の心理面について学ぶ。また、地域の連携や、障害のある人の家族、多職種との協働について学ぶ。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] 障害の概念及び障害福祉の理念について理解する。 障害のある人の心理・行動について理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法] コマ数 ・ <u>障害者福祉の理念</u> ・ <u>障害者福祉の理念</u> ・ <u>障害者福祉の理念</u> ・ <u>障害による生活障害、心理・行動の特徴</u> ・ <u>障害のある人や家族へのかかわり・支援の基本</u>			
[使用テキスト・参考文献]		[成績判定基準]	
中央法規出版「実務者研修テキスト」		(試験やレポートの評価基準など) 提出課題により評価する。60点以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 障害の理解Ⅱ		授業の種類 (通信)	
授業の回数	時間数 20	配当学年・時期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 障害を持っている人と持っていない人の違いを理解するとともに、障害の捉え方や、ICF、様々な障害の種類と原因、特性について学ぶとともに、障害のある人の心理面について学ぶ。また、地域の連携や、障害者の家族、多職種との協働について学ぶ。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] 障害の医学的側面について理解する。 地域や、多職種との連携について理解する。 家族への支援の方法について理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 ・ <u>医学的側面からみた障害の理解</u>(身体障害) ・ <u>医学的側面からみた障害の理解</u>(知的障害) ・ <u>医学的側面からみた障害の理解</u>(精神障害) ・ <u>医学的側面からみた障害の理解</u>(その他の障害) ・ <u>医学的側面からみた障害の理解</u>(難病対策) ・ <u>医学的側面からみた障害の理解</u>(疾病・障害の受容) ・ <u>障害の特性に応じた支援の実際</u>(障害(児)者福祉の理念) ・ <u>障害の特性に応じた支援の実際</u>(障害(児)者福祉の理念) ・ <u>障害の特性に応じた支援の実際</u>(障害(児)者の支援方法) ・ <u>障害の特性に応じた支援の実際</u>(障害(児)者の支援方法)			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版「実務者研修テキスト」		[成績判定基準] (試験やレポートの評価基準など) 提出課題により評価する。60点以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) こころとからだのしくみ I		授業の種類 (通信)	
授業の回数	時間数 20	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択 必修
[授業の目的 ・ ねらい] 介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 人間のこころとからだのしくみを理解し、より質の高いサービスの仕方について学ぶ。そのために、こころのしくみに関する諸理論や、感情のしくみ、からだのしくみ、身じたく、排泄、食事、睡眠等について学ぶ。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] 介護に関連したこころとからだのしくみの基本を理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法] コマ数 ・ <u>介護に関係した身体の仕組みの基礎的な理解</u>(着脱、整容、口腔清潔) ・ <u>介護に関係した身体の仕組みの基礎的な理解</u>(着脱、整容、口腔清潔) ・ <u>介護に関係した身体の仕組みの基礎的な理解</u>(移動・移乗) ・ <u>介護に関係した身体の仕組みの基礎的な理解</u>(移動・移乗) ・ <u>介護に関係した身体の仕組みの基礎的な理解</u>(食事) ・ <u>介護に関係した身体の仕組みの基礎的な理解</u>(食事) ・ <u>介護に関係した身体の仕組みの基礎的な理解</u>(入浴・清潔保持) ・ <u>介護に関係した身体の仕組みの基礎的な理解</u>(入浴・清潔保持) ・ <u>介護に関係した身体の仕組みの基礎的な理解</u>(排泄) ・ <u>介護に関係した身体の仕組みの基礎的な理解</u>(排泄)			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版「実務者研修テキスト」		[成績判定基準] (試験やレポートの評価基準など) 提出課題により評価する。60点以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) こころとからだのしくみⅡ		授業の種類 (通信)	
授業の回数	時間数 60	配当学年・時期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 人間のこころとからだのしくみを理解し、より質の高いサービスの仕方について学ぶ。そのために、こころのしくみに関する諸理論や、感情のしくみ、からだのしくみ、ボディメカニクス、身じたく、排泄、食事、睡眠等について学ぶ。また、多職種との連携に方法についても学ぶ。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] 心身の構造・機能と介護における観察のポイントについて理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 ・ <u>人間の心理</u>(人間の欲求と自己実現) ・ <u>人間の心理</u>(こころの仕組みの基礎) ・ <u>人体の構造と機能</u>(生活習慣病、高血圧と糖尿病) ・ <u>人体の構造と機能</u>(金骨格系疾患、口腔疾患) ・ <u>人体の構造と機能</u>(眼下疾患、皮膚科疾患) ・ <u>人体の構造と機能</u>(呼吸器疾患、泌尿器科疾患) ・ <u>人体の構造と機能</u>(神経系疾患、精神疾患) ・ <u>身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携等の留意点</u>(着脱、整容、口腔清潔) ・ <u>身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携等の留意点</u>(着脱、整容、口腔清潔) ・ <u>身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携等の留意点</u>(着脱、整容、口腔清潔) ・ <u>身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携等の留意点</u>(移動・移乗) ・ <u>身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携等の留意点</u>(移動・移乗) ・ <u>身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携等の留意点</u>(移動・移乗) ・ <u>身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携等の留意点</u>(食事) ・ <u>身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携等の留意点</u>(食事)			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版「実務者研修テキスト」		[成績判定基準] (試験やレポートの評価基準など) 提出課題により評価する。60点以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) こころとからだのしくみⅡ		授業の種類 (通信)	
授業の回数	時間数 60	配当学年・時期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 人間のこころとからだのしくみを理解し、より質の高いサービスの仕方について学ぶ。そのために、こころのしくみに関する諸理論や、感情のしくみ、からだのしくみ、ボディメカニクス、身じたく、排泄、食事、睡眠等について学ぶ。また、多職種との連携に方法についても学ぶ。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] 心身の構造・機能と介護における観察のポイントについて理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 ・ <u>身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携等の留意点(食事)</u> ・ <u>身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携等の留意点(入浴・清潔保持)</u> ・ <u>身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携等の留意点(入浴・清潔保持)</u> ・ <u>身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携等の留意点(入浴・清潔保持)</u> ・ <u>身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携等の留意点(入浴・清潔保持)</u> ・ <u>身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携等の留意点(排泄)</u> ・ <u>身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携等の留意点(排泄)</u> ・ <u>身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携等の留意点(排泄)</u> ・ <u>身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携等の留意点(排泄)</u> ・ <u>身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携等の留意点(休息・睡眠)</u> ・ <u>身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携等の留意点(休息・睡眠)</u> ・ <u>身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携等の留意点(休息・睡眠)</u> ・ <u>身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携等の留意点(人生の最終段階のケア)</u> ・ <u>身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携等の留意点(人生の最終段階のケア)</u> ・ <u>身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携等の留意点(人生の最終段階のケア)</u>			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版「実務者研修テキスト」		[成績判定基準] (試験やレポートの評価基準など) 提出課題により評価する。60点以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 医療的ケア		授業の種類 (通信)	
授業の回数	時間数 50	配当学年・時期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。 [授業全体の内容の概要] 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] 安全・適切に喀痰吸引の実施ができる 安全・適切に経管栄養の実施ができる			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 ・ <u>医療的ケアの実施の基礎</u>(安全な療養生活) ・ <u>医療的ケアの実施の基礎</u>(清潔保持と感染予防) ・ <u>医療的ケアの実施の基礎</u>(人間の尊厳と医療の倫理) ・ <u>医療的ケアの実施の基礎</u>(医療・介護に関する制度) ・ <u>医療的ケアの実施の基礎</u>(医療行為に関わる法律と解釈) ・ <u>医療的ケアの実施の基礎</u>(チーム医療と介護職との連携) ・ <u>喀痰吸引基礎的知識</u>(呼吸の仕組みと機能、呼吸状態の変化) ・ <u>喀痰吸引基礎的知識</u>(痰の吸引とは、人工呼吸器と吸引) ・ <u>喀痰吸引基礎的知識</u>(人工呼吸器と吸引、小児の吸引) ・ <u>喀痰吸引基礎的知識</u>(利用者や家族の気持ち、説明と同意、たんの吸引に関わる呼吸器系の感染と予防) ・ <u>喀痰吸引基礎的知識</u>(トラブルとインシデント報告、急変・事故発生時の対応と対策) ・ <u>喀痰吸引実施手順、演習</u> ・ <u>喀痰吸引実施手順、演習</u> ・ <u>喀痰吸引実施手順、演習</u> ・ <u>喀痰吸引実施手順、演習</u> ・ <u>喀痰吸引実施手順、演習</u> ・ <u>喀痰吸引実施手順、演習</u>			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版「実務者研修テキスト」		[成績判定基準] (試験やレポートの評価基準など) 提出課題により評価する。60点以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)		授業の種類	
医療的ケア		(通信)	
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
	50		必修
[授業の目的・ねらい] 医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。 [授業全体の内容の概要] 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] 安全・適切に喀痰吸引の実施ができる 安全・適切に経管栄養の実施ができる			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 ・ <u>喀痰吸引実施手順、演習</u> ・ <u>喀痰吸引実施手順、演習</u> ・ <u>喀痰吸引実施手順、演習</u> ・ <u>経管栄養基礎的知識</u>(消化器系のしくみとはたらき、消火器のさまざまな症状) ・ <u>経管栄養基礎的知識</u>(経管栄養法とは、注入する内容に関する知識) ・ <u>経管栄養基礎的知識</u>(経管栄養を行う際の留意点、小児の経管栄養) ・ <u>経管栄養基礎的知識</u>(小児の経管栄養、経管栄養に関する感染予防) ・ <u>経管栄養基礎的知識</u>(利用者や家族の気持ちの理解、経管栄養に伴う危険のサインと対応) ・ <u>経管栄養実施手順、演習</u> ・ <u>経管栄養実施手順、演習</u> ・ <u>経管栄養実施手順、演習</u> ・ <u>経管栄養実施手順、演習</u> ・ <u>経管栄養実施手順、演習</u> ・ <u>経管栄養実施手順、演習</u> ・ <u>経管栄養実施手順、演習</u> ・ <u>経管栄養実施手順、演習</u>			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版「実務者研修テキスト」		[成績判定基準] (試験やレポートの評価基準など) 提出課題により評価する。60点以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)		授業の種類	
医療的ケア		(演習)	
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
規程回数以上※			必修
[授業の目的・ねらい] 医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。 [授業全体の内容の概要] 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] 安全・適切に喀痰吸引の実施ができる 安全・適切に経管栄養の実施ができる			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 ・ <u>喀痰吸引の演習(口腔)</u> ・ <u>喀痰吸引の演習(鼻腔)</u> ・ <u>喀痰吸引の演習(気管カニューレ)</u> ・ <u>経管栄養の演習(胃ろう・腸ろう)</u> ・ <u>経管栄養の演習(経鼻経管栄養)</u> ・ <u>救急蘇生法演習</u> ※医療的ケアの演習については、医療的ケアの種類に応じて、それぞれ次の回数以上の演習を実施すること。併せて、救急蘇生法演習についても1回以上実施すること。 【喀痰吸引】 ①口腔 5回以上 ②鼻腔 5回以上 ③気管カニューレ内部 5回以上 【経管栄養】 ①胃ろう又は腸ろう 5回以上 ②経鼻経管栄養 5回以上			
[使用テキスト・参考文献]		[成績判定基準]	
中央法規出版「実務者研修テキスト」		(試験やレポートの評価基準など) 出席と実技により評価する。	